

児童小川荘 「ひだんじい」の墓参り

大原騒動で
遠島 東京・新島村を訪問

高山市荘川町の荘川小六年の児童八人が、東京都新島村の長栄寺を訪れ、大原騒動で遠島になった同町出身の上木甚兵衛の墓と父親の看病のため島に渡った息子の三島勘左衛門の石像を参り、遺徳をしのんだ。

同島への訪問は、総合学習の一環で毎年実施。大原騒動は、江戸時代に飛騨地方で起きた農民一揆で、約一万人が処分された。甚兵衛は町人ながら農民に味方したため遠島となり、島に渡ってからは島の子どもに読み書きを教えるなどし、「ひだんじい」と呼び慕われた。勘左衛門は、中風にかかった父の看病のため島に渡り八年ほど付き添い、甚兵衛の

死後、同町に帰る前に墓石の傍らに自分に似せた石像を作り置いていったという。

荘川小の児童は、同村新島小の児童に大原騒動や同町について調べたことを発表後、新

島小の児童と墓に花を手向け、持ってきた故郷の水を墓と石像に丁寧に掛けた。荘川小の

児童は今後、学習のまとめとして劇を作り、全校児童や地域住民に発表する。



勘左衛門の石像に故郷荘川の水をかける荘川小の児童 東京都新島村、長栄寺